



特設分科会 B 「学童保育の防災～災害への備えを考える」

もりもりくらぶ 保護者 松内 律美

この度は、貴重な機会をいただきありがとうございました。初日の講演会は現代の子どもたちの傾向や様子についてとても参考になりましたし、先生の熱い想いが伝わってきました。2日目の分科会では「防災」テーマの講義をお聞きました。一口に防災と言っても幅広い内容でとても勉強になりました。またグループにわかれてのディスカッションや発表をしている方々と情報を共有しました。

今回、学ばせていただいたことは日頃からの防災意識や準備の大切さに加え、家族や地域、社会との日頃からのコミュニケーションの重要性を学びました。今回いただいた機会を生かせるよう取り組ませていただきます。

最後に日本全国の学童保育に携わる方々と直接お会いしそれぞれの熱い想いを肌で感じることができ、私も学童にむける想いが熱くなりました。改めて、貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。



「全国学童保育研究集会」は、全国の学童保育の保護者・指導員、運営者や自治体職員、研究者の方々などが一堂に会し、二日間にわたって開催される、年に一度の研究集会です。

記念すべき第六十回（主催全国学童保育連絡協議会・福岡県学童保育連絡協議会）は、初の九州上陸！となる福岡県にて開催され、十月二十五日・二十六日（現地）、十一月九日（オンライン）と、日程を分ける開催方法で行われました。参加者は四三六二人！石川からは七三人が参加しました。参加された方の感想の中から一部をご紹介します。



第60回

全国学童保育研究集会 IN 福岡！

石川の学童保育

No.402

石川学童保育
連絡協議会

第24分科会「子どものからだと生活」

つばたつ子ピース 指導員 林 優季

今回の講義では、大人と子どもの向き合い方で5つの「育」について養育・遊育・教育・硬育・治育についても学びました。その中で学童でもできる、養育の中にある食育は学童でのおやつやの時間や、遊育では、仲間との遊びを通じて育ち合い、異学年と交わる学童を通して、子どもたちの権利を保障する大切な場と機会になっていると改めて思いました。また、学びを止めないためにと急激に進められたデジタル環境によって、子ども達の視力の低下が進み、台湾では近視予防が進んでいて、週11時間以上、1000ルクス以上の光を浴びた子どもは、近視になりにくいことが実証されており、屋外活動は子どもの成長や近視予防に必要な活動だと知りました。屋外活動をする上で、毎年夏の暑さが更新していて、猛暑・酷暑が普通になり、夏の間は特に注意をしながら保育していました。熱中症になりやすい状態は、暑熱順化ができていない時に起こりやすいと知ったので、夏休みや急に暑くなった日など、外遊びには特に注意をしながら大人も子どもも過ごしていきたいと思いました。

第3分科会①「つながる“わ”保護者会父母会の役割と活動」

もりもりくらぶ 保護者 森本 健太郎

今回の分科会に参加し、全国の学童保育が抱える現状や課題について多くの示唆を得ることができた。参加者から共有された内容は地域ごとに背景や制度の違いこそあるものの、共働き家庭の増加による需要拡大、コロナ禍を経た活動縮小やオンライン化の影響、保護者会役員の担い手不足、保護者同士のつながりの希薄化といった点は共通しており、学童保育を取り巻く環境が全国的に大きな転換期を迎えていることを再確認した。また、保護者会の負担の増大や役員の固定化、各保護者同士のコミュニケーションの取りにくさ、行政・学校との調整の難しさなど、日々の運営の中で直面する具体的な悩みが多く語られ、自身の現場で感じていた課題と重なる点も多かった。一方で、各地域から報告された取り組みや改善事例は非常に参考となった。役員会のオンライン化や情報共有の効率化、業務の細分化による参加しやすい仕組みづくり、指導員の雇用条件改善や昇給ルールの整備、保護者と指導員が協力してイベントを開催した事例など、現場の工夫が随所に見られた。また、新施設の立ち上げに向けて行政と協働した例や、

地域住民を巻き込んで親子イベントを実施した事例など、学童が地域の子育て資源として機能している様子も印象に残った。さらに、父親の参加を促す工夫や、世代の異なる保護者間での関わり方、SNSを活用した緩やかな繋がりづくりなど、保護者のコミュニティの在り方に関する議論も興味深かった。特に「みんなで育てる場」をどう維持していくかというテーマは多くの地域で共通しており、学童保育が単なる預かりの場ではなく、保護者・指導員・行政が協働する子育ての基盤であることを再認識した。

今回の分科会を通じて得た知見は、今後の運営を見直す上で大いに役立つものである。課題を一つずつ改善するためには、保護者・指導員・行政のいずれか一方に負担を寄せるのではなく、互いに補い合いながら無理のない仕組みをつくることが重要であると感じた。今回の議論から得た気づきを自分の学童でも生かし、より良い環境づくりに向けて取り組んでいきたい。

<お知らせ>

次回 2026 年
全国研は山形！

10/31日(土)

11/1日(日)



県担当課と懇談しました

去る11月14日(金)県庁にて、今年度の要望書を提出し、約2時間懇談しました。

石川県健康福祉部少子化対策監室より子ども政策課長とご担当者(2人)にご出席いただき、県連協からは森下会長、日吉指導員、新矢指導員(たがみっこクラブ)大澤津幡連協会長、事務局栗原が出席しました。

指導員不足や大規模化、施設問題など詳しい現状をお伝えしながら、「学童保育施策の拡充」「運営における地域の格差是正」「能登地域の学童保育への支援」などを要望しました。県からは、大事な事業であり、県としても市町に働きかけながら国の補助金を活用して積極的に進めたい旨の回答をいただきました。



たくさんの
ご参加をお待ち
しています!



第42回石川県学童保育研究集会の お知らせ

日時: 2026年2月15日(日)

10時~16時

会場: 石川県女性センター

金沢市三社町1番44号

記念講演:

「子どもが『自分らしく』いられるために

—保護者が大切にしたい子どもの権利—

講師: 谷口 由希子氏(名古屋市立大学)



県連協顧問・荒木田氏が語る

「石川県の学童保育の歴史」

その18



障がい児加算実現

2000年(平成12年)

県連協として、10年ぶりに「石川の学童保育資料集 No.4」を発行しました。

放課後児童健全育成事業の障がい者受け入れ加算が本格運用となり、県が障がい児2名以上入所クラブに対し人件費加算の補助を開始しました。

福井、富山両県が独自に活動を始めたので、これまで続けてきた「北陸ブロック学童保育研究集会」を発展的解消し各県単位での開催にすることにしました。

この年、初めて日本赤十字の共同募金会に対し、学童保育の集会等に配分を求める申請を提出しました。

金沢市で3か所、松任市で2か所、七尾市、羽咋市で各1か所の学童保育クラブが誕生しました。津幡町

「あしの子クラブ」が児童数増加に伴い「第二あしの子」を増設しました。年度途中ですが、7月に松任市、加賀市で各一か所誕生し、9月、10月に寺井町、輪島市でも各一か所が誕生しています。

全国連協が5年ぶりに詳細な指導員実態アンケート調査を実施しました。

第35回全国学童保育研究集会が、兵庫県で行われ4890名の参加がありました。第25回の全国指導員学校・西日本会場は愛知で、東日本会場は千葉が担当し2100名の参加を得ました。

2000年度の全国総会で、「学童保育の拡充を求める署名運動」を2001年4月を目標に取り組むことを決め、第35回の全国学童保育研究集会からスタートしました。